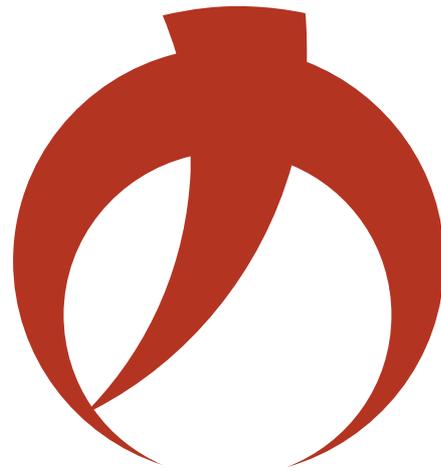
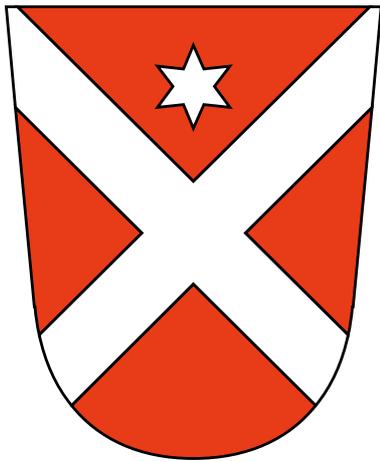


---

平成23年度  
国際交流視察団報告書

---



平成23年12月 奈井江町

## 目 次

国際交流視察団日程	1
国際交流視察団名簿	1
ハウスヤルビ町を訪れて 鈴木 隆	2
ハウスヤルビ町を訪問して 高子 和季	11
ハウスヤルビ町を訪れて 高田 尚弥	16
ハウスヤルビ町を訪問して 佐藤 聖美	21
ハウスヤルビ町を訪問して 大澤 真子	26



### 【左から】

大澤 真子、佐藤 聖美、パイヴィー・テラヴァ町長、アレキシ・ヘイッキラ理事長、  
ヴォッコ・ラマ精神障害者住居施設長、鈴木 隆 教育次長、高田 尚弥、高子 和季

**【国際交流視察団 訪問日程】**

平成23年9月22日(木)～9月30日(金)：9日間

月日 (曜日)	内 容	容
9/22 (木)	10:30 出発挨拶(役場) 13:35 新千歳空港 発 15:45 関西空港 着 関西エアポートワシントンホテル(宿泊)	
9/23 (金)	8:40 関西エアポートワシントンホテル 発 10:55 関西空港 発(飛行時間10時間15分) 15:10 ヘルシンキ空港 着(時差6時間) 18:00 歓迎夕食会(リヒマキ市、ホテル)	
9/24 (土)	(鈴木) 9:30 ハウスヤルビ町全教師参加の研修会に参加 (タンメラ町)	(高子、高田、佐藤、大澤) ホストファミリーと交流
9/25 (日)	10:00 ガラス博物館、狩猟博物館見学(リヒマキ市) アウラ公園林散策(ハメーンリンナ市)	ホストファミリーと交流
9/26 (月)	8:30 ハウスヤルビ中学校訪問(奈井江町の紹介) ※全員 17:00 新築エスコー小学校視察 18:00 ハウスヤルビ町政懇談会見学 (エスコー小学校体育館：ヒキア地区)	ホストファミリーと交流
9/27 (火)	9:00 職業学校視察(リヒマキ市) ※全員 12:30 図書館見学 13:30 オイッティ小学校訪問(奈井江町の紹介) 18:00 ハウスヤルビ生誕400年式典参加(庁舎)	ホストファミリーと交流
9/28 (水)	8:30 ハウスヤルビ町内視察 ※全員 福音ルーテル教会、郷土資料等保存展示ハウス 香辛料工場、蜜ろうそく製造所、織物工場 17:30 お別れ会(休暇村ニクランディア)	ホストファミリーと交流
9/29 (木)	9:00 ヘルシンキ市内視察(シベリウス公園、市場等) 17:15 ヘルシンキ空港 発(飛行時間9時間35分)	
9/30 (金)	8:50 中部空港 着 11:10 中部空港 発 12:55 新千歳空港 着 15:20 役場 着	

**【国際交流視察団名簿】**

鈴木	隆	奈井江町教育委員会教育次長
高子	和季	奈井江商業高校2年
高田	尚弥	奈井江商業高校2年
佐藤	聖美	奈井江中学校3年
大澤	真子	奈井江中学校2年

## ハウスヤルビ町を訪れて

教育委員会 教育次長 鈴木 隆

9月22日に奈井江を出発して9月30日までの9日間、奈井江中学校女子2名、奈井江商業高校男子2名、引率者の私の計5名が奈井江町を代表して、ハウスヤルビ町を訪問してまいりました。奈井江を離れてハウスヤルビ町に到着するまでの子供たちは、初めてのホームステイ、学校訪問、英語が通じるかなど、たくさんの不安を感じつつ、スーツケースに大きな期待と夢を詰め込んだの旅行でしたが、到着後は、連日天気にも恵まれ、予定通り全行程を無事終了することができました。無事に帰町出来ましたのも本交流をご支援いただきました関係者の皆様、そして温かく見守っていただきました保護者の皆様のおかげです。心より感謝を申し上げます。

今回の訪問の目的も、子どもたちが異国でのホームステイや現地の青少年との交流を通して異なる文化に触れ、それを理解し、国際人としての自覚を培い



体験し実践することでした。全行程を振り返りますと子どもたちは、その目的を達成するために、与えられたこの貴重なチャンスを生かし、チャレンジをし、自分自身をチェンジすることができたと確認しております。そして、私にとっても今回の訪問は、今後の教育行政の推進にあたって大変参考になったと考えております。

それでは、ハウスヤルビ町の滞在期間中に見聞した概要について報告いたします。

滞在期間中は、トルティーラ教育長をはじめ、マケラ・オイッティ小学校校長、トルネン・ハウスヤルビ中学校校長、トオイマラ職業学校経営責任者、そして多くの教師の方々と話をする機会を設けていただきましたので、彼らから伺った話や感じたことを交えて、フィンランドとハウスヤルビにおける教育事情の現状などについて報告をいたします。

### 【フィンランドとハウスヤルビについて】

まずは、フィンランドとハウスヤルビについて簡単にお知らせします。

フィンランドの人口は、約540万人と北海道より少ないです。しかし、最近海外から入ってくる移民が増え、同時に新生児の数も増加し、人口は増加傾向です。

面積は日本の約90%で、国土の4分の1が北極圏内にあり、夏は「白夜」となります。国土の約7割が森林、1割が湖沼、湖の数は18万個とも言われ、それで「森と湖」の国と呼ばれています。日本のように山岳地帯が無く、人口も少ないので、ほとんどの人が湖畔に別荘を所有しており、長い夏休みをそこで過ごす人が多いようです。さらに、フィンランドは、ムーミンやサンタクロース、シベリウス、サウナ、キシリトールでも知られる国です。また、国際競争力世界一、先端技術世界一、政治的清廉潔白度世界一、高福祉社会、そして世界トップレベルの教育水準と、小国ながらも世界から高く評価されています。

日本との時差は6時間（サマータイム期間中）で、公用言語はフィンランド語とスウェーデン語です。

ハウスヤルビは、フィンランド共和国南スオミ州カンタ＝ハメ県に位置し、首都ヘルシンキから北東へ約70kmと近い所にある町です。人口は約8,800人と、最近では人口が増加傾向です。その理由として、地理的要因、自然環境、教育環境などを挙げておりました。面積は、362km<sup>2</sup>で奈井江町の88km<sup>2</sup>の約4倍の広さを有しています。高齢化率は17%と奈井江町の約半分とかなり低いです。ハウスヤルビ町には、ヒキア、オイッティ、リイティラ、そしてモンニと4つの中心地区があり、行政執行の中心地は、オイッティです。



### 【フィンランドの教育制度】

それでは、フィンランドの教育制度の概要を紹介いたします。

小学校は7歳から始まります。日本は6歳からなので、1年遅いです。労働力不足が見込まれている今日、6歳から開始すべきだという意見があるそうですが、7歳から始めるのは、できるだけ長く子どもの時間を過ごすほうが、子どもの発達を促すとの研究結果が出されているからと言われていています。フィンランドでは、小学校から大学まで、すべて教育費は無料で、すべての子どもに均等な教育を受ける機会を保障しています。また、9年間の義務教育期間は、給食、学校までの送迎が無料、教科書も支給されます。

中学卒業後は、普通科高校へ進学するか、職業学校へ進学するか分かります。

高校卒業後は、進学検定試験を受験しなければならず、その成績と入試の成績で、大学または職業大学校（高等職業専門学校）へ進学することができます。

学校の始まりは、8月中旬から翌年の6月初旬までで、2学期制（1学期：8月中旬～12月中旬、2学期：1月初旬～6月初旬）が一般的であり、年間授業日数は190日です。日本の日数よりも15日ほど少なく世界最低の授業日数とされています。

### 【ハウスヤルビ町の教育現状】

日本の学習指導要領にあたるフィンランドの「コア・カリキュラム」は、日本のように教科ごとの授業時数を細かく定めず、最低確保すべき時間を決め、国は管理指導するのではなく支援に徹しています。地方自治体は地域の実情と学校に適したものを具体化し、学校がさらに指導計画などを決定することができ、地方自治体の教育に関する権限が大きなものとなっています。



ハウスヤルビ町には、現在、小学校 5 校、中学校 1 校、そして高校 1 校があります。昨年の 2010 年に、4 つの小さな小学校を 1 つに統合したため、8 校から 5 校になりました。さらに、2014 年には、リィティラにある 2 つの小学校が、児童数の減少により 1 つに統合する予定となっています。統合によ

って廃校となった小学校の跡地利用としては、幼稚園に変える計画があるそうです。

町内の小学校、中学校そして高校に勤務する教師の数は、現在約 80 人で、うち校長を含め 30 人が、中学校（生徒約 300 人）と高校（生徒約 70 人）の教師を兼ねています。教師全員がハウスヤルビ町の職員として採用され、学校に配属されますが、配属後は、その地域の生徒たちの教育に責任を持たせる意味から、教師は、一つの学校にとどまり、退職まで同じ学校に勤務するそうです。

教師の定年退職年齢は 60 歳ですが、68 歳までは働くことは可能とのこと。現在の最高年齢者は、63 歳の女性教師が働いているとのことでした。

教師の勤務日数は、年間 190 日で、その外に年間 3 回の全職員研修に参加する義務を負っています。

日本の場合、都道府県が教師の採用、異動などの人事権を持っているので、フィンランドとは全く違います。

ハウスヤルビ町の小学校における週の授業時数は、小学 1 年生と 2 年生は 20 時間、小学 3 年生と 4 年生は 23 時間、小学 5 年生と 6 年生は 25 時間で、中学校は 30 時間です。

日本では、小学 1 年生が週 25 時間、2 年生が 26 時間、3 年生が 27 時間、4 年生から 6 年生までが 28 時間で、中学校は 29 時間です。中学校は 1 時間の差しかありませんが、



小学校ではフィンランドの方が、日本より授業時数が少ないです。

フィンランドの年間授業日数は、世界最低の 190 日で、週の授業時数も少ないのに高い学力を誇っています。詰め込み教育などは一切行われておらず、なんと、義務教育の最終年である中学 2 年生まで、日本のような成績表がありません。成績に左右されず、生徒たちはのびのびと学んでいます。ですが、放任主義というわけではなく、授業の理解が足りない生徒への教師のフォローは徹底しています。1 クラス 16～25 人の少人数制で、勉強についていけない生徒がいれば、一時的に 2～5 人のグループをつくって、週 1～3 回ほど学校に常駐している特別支援講師が補習をします。補習を受けることに生徒本人は抵抗を感じることなく、親たちも歓迎しているとのことでした。

授業の形態は、グループ学習、少人数学習、個別指導が多く、生徒の自主性や協調性が重視されています。グループ学習は、4 人 1 組で机をくっつけて、生徒たちは自分たちのペースで学習したり、授業中には立って歩くことも自由で、水を飲みに行ったりもできます。

日本では、授業中に自由に歩き回る行為などは考えられません。フィンランドでは、自由な行為が許されてはいますが、生徒が他人に邪魔になるような行為をしたときだけ教師はまれに注意する程度で、行儀を悪くして勉強が遅れても「本人の責任」だと言います。しかし、教師は何もしなくてよいということではなく、「自らのやる気と動機が重要である」と考えているので、教師は生徒の勉強の様子を把握しながら、適切なときに適切な支援を与え、動機を形成させる指導に努めるそうです。

また、オイッティ小学校（児童数約 250 人）を訪問したときのことで、日本にはない教育制度を紹介していただきました。それは、小学校に入学する前の 1 年間、義務教育を受ける準備教育として、小学校（未就学児学校）で、文字・数字、生活のマナーを遊びを通して学ぶことができます。入学は自由とされていますが、無料の上に子どもの入学への不安を解消してくれるとあって、この小学校には 32 人が通学していました。この子たちには 4 人の教師が当たっているとのことでした。

#### 【最新の学校設備】

昨年、4 つの小学校を統合し、新築したエスコー小学校をトルティエラ教育長に案内していただきました。学校の建設費は、700 万ユーロ（9 億 1 千万円：130 円/ユーロ ※建設時レート）で、うち国補助金が 300 万ユーロ（3 億 9 千万円：130 円/ユーロ）とのことでした。

校内を案内していただきましたが、全ての教室や廊下は、人が照明



のスイッチを押すことなく、人を感知し自動で電燈がつきます。授業の情報化を図るため、各教室の教卓にはパソコンとOHP、プロジェクター、最新の電子黒板などが完備されていました。携帯電話の市場占有率が世界の3分の1というIT（情報技術）企業「ノキア」の国だけに、IT教育に力を入れた授業に対応しているとのことで、設備には圧倒されました。

また、教師たちがともに学びあえるように、場所と機会を設けるよう工夫がなされています。例えば、スタッフルーム（職員室）は、授業の準備などの個別作業をするスペースとみんなが集まれるスペースが完備されていました。みんなが集まるスペースには、くつろぎながら交流できる場が作られていて、そして、その日の予定や連絡事項が記入されるホワイトボードも備えられていました。

さらに、この学校では、放課後の活動に関しても、日本のように子供たちが習い事や塾に通うのではなく、放課後活動を提供するボランティア団体などと学校が連携し、子どもをはじめ地域の住民が参加できるいくつかのコースを設けて活動していました。実際、この小学校に備え付けられている電動工作機器などを使い、椅子・机・テーブルなどの家財道具などを製作していましたが、技術工作教室の設備の素晴らしさには驚きました。



そこで、トルティーラ教育長に、小学校統合によるメリットとデメリットを伺ったところ、メリットとしては、教師の数は2人くらいしか減らなかったが、学校の管理運営経費がかなり削減できた。また、最新の教育指導教材や情報通信設備などを更新することができたとのことでした。デメリットについては、生徒の中に通学の距離と時間が増えたことや、ベテランの教師が最新の指導教材の使用について行けないとのことでした。

#### 【リヒマキ市の職業学校を訪ねて】

フィンランドでは、義務教育終了の中学校を卒業すると、大学や高等職業専門学校への進学を希望する生徒が普通高校に、就職や職業教育機関での訓練を希望する生徒が職業学校へ進学します。2010年発表によると、普通高校への進学率は54.5%、職業学校への進学率は38.5%で、残りの7%は10学年への進学（もう1年間義務教育履修）や就職などです。

テラヴァ町長の案内で、ハウスヤルビ町の隣にあるリヒマキ市の職業学校を訪問し、トオイマラ職業学校経営責任者らから説明を受けました。

この学校は、リヒマキ市、ヒュヴィンカ市、ロッピー町、ハウスヤルビ町の

4 自治体の出資により運営されています。年間の学校運営予算は、約 4,300 万ユーロ（4 億 7 千 3 百万円：110 円/ユーロ）で、EUからも助成を受けています。

現在の生徒数は 1,150 人で、教師が約 100 人いるそうです。最近では若者の就職難のご時世から、職業学校への進学者が増えていて、上記の 4 自治体からの入学生徒が多いそうです。生徒は、全ての授業における教育費（食事を含む）は無料です。

ここで働く教師は、高等教育で学術的な学位を有しているか、その職業における最高の資格を有し、最低でもその分野で 3 年の実務経験と教員課程を修了していなければならないそうです。



学校は 3 年制（16 歳～19 歳）で、8 月に始まり 5 月下旬に終了します。学生は、この学校で調理師、ウエイトレス、コンピュータープログラマー、大型運転手、建築士、看護師、観光ガイド、動物トレーナー、美容師などの資格取得や養成のために、30 種類の専門職種を学ぶことができます。そして、3 年間で 120 週間の授業を受けなければなりません。うち 90 週間は基

礎的学習、20 週間は実践学習（実地研修）、10 週間は語学、数学、物理学など大学入学に必要な科目を学習します。

実習には、かなり重きを置いているようで、施設内の食堂で昼食を食べたことですが、そのときに接客していたのが、本校生徒のウエイトレス希望者で、厨房内では調理師を希望する生徒があたっていました。この食堂には、学校関係者以外の一般の方も訪れます。だから生徒たちには、現実的な対応が求められるので、大変に勉強になるようです。

なお、卒業にあたっては、4 つの評価基準テストをクリアしなければ卒業できません。そして卒業後は、就職又は大学や高等職業専門学校に進学します。

#### 【お化粧やピアスの女の子】

ハウスヤルビ中学校では生徒に、オイツェィ小学校では教師に、奈井江町の概要について紹介、説明をいたしました。そのときの生徒や教師との意見交換した中で、興味深かったことを報告いたします。



学校では服装、髪型、装飾品着用の制限がありません。女の子が髪を真っ赤に

染めようが唇ピアスをしようがお化粧をしようが、また、男の子がワックスで髪をとがらせたりして、それぞれファッションを迫りますが、特に先生は注意しません。濃いお化粧や奇抜なファッションに凝るのも中学生の頃までで、高校に進むとメイクもナチュラルになり、大学ではすっぴんだったりするそうです。格好付けたがったり自分の個性的ファッションを強烈にアピールしたい時期というのは必ずあり、一種の通過儀礼のようなものなので、押さえつけたりはしないそうです。

携帯電話は、小学校低学年からほぼ 100%持っているそうです。授業中、携帯を使って調べものをして問題ないようです。親たちは、必要なときに子どもと連絡を取ることができると考えて、子どもに携帯電話を持たせるそうです。これは、携帯電話端末で世界最大のシェアを制している「ノキア(電気通信機器メーカー)」がフィンランドにあることも関係しているのでしょうか。お国柄の違いだなあと感じました。



また、フィンランドでは小学校 3 年生から英語を学びます。フィンランドでの子ども向けのテレビ番組は、米英製のものを吹き替えなしで流されています。実際、私が宿泊したホテルで見た、アメリカのディズニー漫画やドラマは英語のままでの放送でした。ただし、フィンランド字幕が表示されていました。

テレビを見ると、子どもたちは幼いときから否応なく英語に接する習慣があるので、日本よりも英語の習得が速いのだと感じました

フィンランドの年間授業日数は 190 日と、日本より少ないことを前述しましたが、日本のように団体で行動するような諸行事(学習発表会、運動会等)がないとのことであったので、諸行事を除けば変わらないのではと思いました。



フィンランド教育の紹介に、「16 歳までテストのないフィンランド」という日本の記事があるが、それは誤りで「他人と比較するためのテストはない」とのことです。日本の教師に同じことを質問したら「他人と比較するためにテストをしているのではない」と同じ答えが返ってきそうです。

授業中の生徒の自由な行動についても前述しましたが、非常に態度の悪い生徒がいた場合の対応を聞いたところ、日本の学校教育法に規定する出席停止などの「規律維持に関する規定」が定められているそうです。

フィンランドは、「図書館利用率世界一」の国だそうです。伝統的に家庭での読み聞かせと読書が当たり前に行われ、読解力が高いのも特徴の1つようです。学校でも本を読むことを重視していて、「勉強する」という言葉は使わず、「本を読む」と表現するそうです。ハウスヤルビ町では、月曜日から金曜日まで5つの小学校を順番に、一度に約19,000冊の図書を運搬できる大型バスで巡回しています。

#### 【ハウスヤルビ町の町政懇談会を見学して】

2年に1度開催されます町政懇談会（エスコー小学校体育館）を見学することができましたので、その概要をお知らせします。

行政側は、テラヴァ町長、トルティエラ教育長ら7人が出席し、町民は約60人が参加していました。

最初に、町長より、町財政の現状と今後について説明があり、これまでの過去3年間は、収支差引において黒字会計となったが、今年度の見込みでは、予算に対して収入はプラス4.4%、支出ではプラス6.8%で、支出が収入を上回る状況にあり、また、低迷が続くEU経済の影響で来年の国からの予算が削減される予定であり、今後の厳しい財政状況の中で、人口が増加しているオイッティ地区などでの道路工事や排水整備などの実施、あるいは、公営住宅の家賃を来年度一律に15%値上げすることを説明し理解を求めています。

その後、質疑応答が始まりました。歯医者が少ないので、リヒマキ市まで行かなければならない。時間がかかり不便であるので、歯医者を招致して欲しい要望や、人口増の地区以外にも道路整備すべき場所があることや、1970年代に建設した公営住宅の修理がまだ行われていないのに、家賃値上げには不満であるなどの意見がありました。それらの要望意見に対し、町長、財務責任者、技術責任者らが応えていました。



#### 【終わりに】

終わりにになりますが、今回の訪問に際しまして、ハウスヤルビの方々の温かい歓迎と格別なるご支援をいただきましたことに感謝申し上げます。特に、今年3月11日に起きました、東北地方太平洋沖地震と福島原子力発電所事故について、ハウスヤルビ町の多くの方々が、奈井江のことをご心配いただいていることに、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

今後も両町の生徒による相互交流が継続されることを願うと共に、この交流事業が、今年制定した奈井江町教育ビジョンの基本理念として定めた「世界を見据えた『自立の力』と『共生の心』をもった人づくり」を育む事業として期待するものです。

今回の訪問の私の目的は、「フィンランドと日本の教育の違いを実感する」ことでした。幸いなことに、多くの方々と懇談する機会をいただき、興味深い教育実情を知ることができました。正に「百聞は一見に如かず」そのものの、大変に有意義な視察でした。この体験を奈井江の子どもたちの教育に生かしていきたいと考えています。

以上、交流報告といたします。

## ハウスヤルビ町を訪問して

奈井江商業高等学校 2年A組 高子 和季

### ■1日目

僕は、飛行機に乗る時間が10時間と聞き、そんなに乗るのかと驚きました。でも、何かかにかしてれば、時間が経つのが早いだろうと思っていましたが、全然、想像と違って、疲れしました。寝るときとかも、首が痛くて、20分から30分おきに起きてしまい、全然、寝れませんでした。

フィンランドに着いて、大きなバスに乗りました。それがバスじゃなくタクシーで、車種がベンツだったので、「外国に来た」と実感しました。

リヒマキ市に着き、ホテルで休みました。横になっても飛行機に10時間も乗っていたので、フワフワと浮いた感があって、気持ち悪かったです。時差が6時間ありましたが、疲れていたのでお風呂に入り、寝ることができました。

### ■2日目

9月24日に、ヨケライネンさんの家族がホテルまで迎えにきてくれました。



それから家に行こうとしたのですが、僕が英語も話せないので図書館によって、フィンランド語の本を借りました。

家の中に入る時、玄関で僕はとまどいました。そんな僕にお父さんのカリさんが、「ここで脱いでいいよ」と教えてくれました。「優しい家族だなあ」と思い、温かい気持ちで部屋に行きました。

ぐったりとベッドに横になっていたら、ヨケライネンさん家族に「散歩しに行くよ」と誘われ、行きました。森の中を10キロくらい歩きました。それだけ

でもまだ足がむくんでいて、疲れしました。

家に着き、部屋に戻って、ベッドに横になり目をつぶっていたらすぐに寝てしまいました。家族との話す貴重な機会を逃したので、悔しい気持ちになりました。

### ■3日目

前日は疲れがたまっていて、21時に寝たのですが、起床してすぐ、リビングに行ってみると、みんな起きていて、家族で出かけることになりました。

昼食はピザを食べ、その後、美術館にも行きました。美術館では、昔の刑務所が美術館になったようで、歴史のある古い建物や品物ばかりで、とてもおもしろかったです。

家に帰り、夕食は18時でした。日没が20時くらいでした。まだ外も明るく、「日本なら夏のような空なのに外は寒い」という違和感を覚え、「日本との気候

の違い」を感じました。

ヨケライネンさんの家に泊まって一番驚いたことは、日本の学校のグラウンドくらい敷地面積があることです。敷地内に、サウナが2つもありました。車で移動した森の奥には、家がありました。家の目の前に、湖がありました。

家の横に車を止め、「これは別荘だよ」と説明されました。そこにもサウナがあり、「サウナの後は、湖に飛び込む」と言っていました。日本と違って、何もかもスケールの違いに圧倒されました。

家に帰り、「サウナがあるから入るかい？」と聞かれ、サウナに入りました。フィンランドには、お風呂（湯船）がなく、シャワーとサウナしかなく、入浴できないのがつらかったです。

それから、お父さんとお母さんのカトリさんと話しました。「日本との時差」や「日本のニュース（福島原発）」「友人関係」「日本での生活スタイル」などを話しました。



#### ■4日目

9月26日月曜日に、中学2年生の長女ヘイディと学校に行きました。中学生はみんな私服で、上履きがないことに気づいて、「外国の学校は自由だ」と思いました。フィンランドの学校には制服がなく、正直うらやましく思いました。

学校の中で高田君と会い、「やっと日本語が話せる」と思い、落ち着きました。日本語が話せて“うれしい”と実感しました。日本ではありえないくらい、高田君と話をしました。

学校内を見学して、昼食の時間になりました。昼食は、食堂でした。食事の量が、少ないことに驚きました。

中学生が校内で、スケートボードに乗っているのを見て、「先生は注意していないことに」驚きました。



それから高田君と別れ、家に帰りました。ヘイディと長男アルッツと話をしたいと思っていました。自分から積極的に話しかけることにしました。しかし、ヘイディは“反抗期か照れ屋”なのか、すぐに部屋にこもってしまい、出てきませんでした。それからシャワーに入り、部屋に戻って時計をみたら21時前でしたが、眠気に襲われました。「日本の時間は今何時だろう」「みんな寝てるのかなあ」と考えつつ眠りにつきました。

## ■5日目

今日からは、朝7時15分に起きるようにしました。  
今日はアルッツと一緒に学校に行きました。



学校では、奈井江から一緒に来た鈴木さんと合流し、一緒に行動しました。午後は、「職業訓練学校」に行きました。そこでは、車の修理やトラックの運転の練習などをしていました。日本の専門学校のようなところでした。

見学が終わり、中学校に戻って、野球をしました。野球のルールが特殊でした。ピッチャーがいなくて、上に玉を投げてただ単に打つというルールで、僕は、全部打ちました。

「打っても、走ってはだめ」というルールで僕は、戸惑いました。

目的も理解できないままゲームが終わり、生徒が日本語で『ありがとう』は何とのかと聞いてきました。僕は、すぐに答えましたが、聞き間違えなのか一人の生徒が「ありがんとん」と伝わってしまいました。フィンランド語は自然と覚え、少しですが理解できるようになりました。

家に帰ると、アルッツがスケボーをやっていたので、僕も一緒にやりました。

アルッツはとても上手で、カッコよかったです。僕もやりたいと思い、お父さんに「スケボーを買って行って、アルッツに教えてもらいたい」と、頼みました。明日、買いに行くことになりました。その日は、スケボーに初挑戦だったので、こけて腰を打ち、痛くてたまりませんでした。

夕食も終わりシャワーを浴びて、お父さんとお母さんと話をし、眠りにつきました。



## ■6日目

仲良くなったアルッツと一緒に学校に行きました。

今日は、タクシーで教会に行きました。そこには、大きなキリストの絵が貼られていました。パイプオルガンは、200本近いパイプがあり、是非演奏を聴きたかったです。その後、絨毯を織る工場へ行きました。手作りで絨毯を作っていました。

学校に戻って、僕と一緒に来ていたアルッツがいなく、どうすればいいかと

戸惑っていたら、タクシーの運転手が話しかけてきて、「アルッツはいないのか?」と言ってきたので、「はい」と答えました。学校の先生が出てきてアルッツに電話をかけて、迎えに来てもらいました。

家に着いてから、アルッツと一緒にスケボーをされていて、お父さんが帰ってきたので、買い物に行きました。赤いスケボーをプレゼントしてくれました。とてもうれしかったです。

それから、パーティーがあり、スーツケースなど荷物を車に積んで、家を出ました。パーティー会場について、家族写真を撮りました。

全員でサウナに入るまで時間があり、高田君とアルッツと僕でスケボーをしました。

女子がサウナに先に入っていました。女性が出てきた後、水着に着替えて電燈もないサウナに入って汗をかき、外に出て行って湖に飛び込みました。湖は意外と深く、足がつかせませんでした。水が冷たく、皮膚が痛かったです。それを5回ほど繰り返しました。

みんなと別れ、タクシーでホテルに向かいましたが、「寂しい気持ち」になりました。



## ■7日目

観光ということで、ヘルシンキ市内を回りました。大きな豪華客船やフィンランド大統領の家を見ました。僕はすごく興奮しました。

空港に行き、日本へのフライトですが、一番困難なのが寝ることです。10時間を過ごすのは、正直つらかったです。

関西空港に着いてまずしたこと。携帯の電源をつけること。メールをチェックして、25件の受信に驚き、日本に着いた実感がわきました。

「日本はやっぱりいい」と安心感に包まれ、北海道への飛行機に乗り込みました。



今回の視察研修を通して「人の優しさが、とてもうれしかったこと」です。

苦労したことは、10時間という移動時間が想像を超え、自分の体に負担となったこと。言葉が通じなくて、現地で本を図書館から借り、勉強したことです。食生活の違いがあったこと。前菜からデザートまで、食事の量が多いこと。

興味があったことは、パーティーなど、

家族みんなで食事することやプレゼントを交換すること、地下室に滞在するなど、建物など日本とは違うことを実感しました。

今後の生活においては、自分にとって、日本がとても好きになりました。帰ってきて最初に食べたラーメンが最高でした。人種が違うことで、目の色や髪の毛の色など違うが、みんなお互いを思いやる気持ちは同じだったと思っています。事前に学習することの大切さを実感しました。

このような有意義な視察研修の機械を与えていただきまして、本当にありがとうございました。今回の経験は、これから人生で自分にとって、貴重な財産になりました。



## ハウスヤルビ町を訪れて

奈井江商業高等学校 2年 A組 高田 尚弥

### <1日目>

僕は、生まれて初めて海外に行きました。とても楽しみでした。

新千歳空港に到着して、荷物のチェックをして飛行機に乗りました。初めてだったので、テンションが上がりました。

初日は、大阪のホテルに泊まりました。結婚式で使われるとてもきれいな階段が印象的でした。ホテルでは、あまり眠れませんでした。



### <2日目>

朝食を食べて、準備をして空港へ。日本円をユーロに両替しました。飛行機に乗り 10 時間。おしりと太ももが痛くて、あまり眠れませんでした。無事、フィンランドに到着。日本とまったく違った景色でした。まわりを見ても日本人はいなくて、「外国に来たんだ」と実感しました。

その日は、リヒマキ市のホテルに泊まりました。トイレの蛇口が日本とは違って“回す”タイプではなく“押す”タイプだったので、最初は迷いました。

フィンランドで最初にびっくりしたことは、「ジュースがとても高かったこと」です。500 ミリリットルが、日本のお金で 280 円でした。僕は、ファンタを買ったのですが、ペットボトルの形が日本とは違いましたが、味は日本と同じで、おいしく飲みました。

18 時から、パイヴィー・テラヴァ町長、アレキシ・ヘイッキラ理事長、ヴォッコ・ラマさんと夕食を食べました。飛行機での睡眠不足と時差がマイナス 6 時間で睡魔に襲われました。

初めて食べた海外での食事は、とってもおいしかったです。食後にサウナに入りました。日本と同じ感じでした。その後、20 時には眠りにつきました。



### <3 日目>

6時に起きて、すぐに朝食を食べました。パンに野菜などをはさめて食べました。とってもおいしかったです。そしてロビーでホストファミリーと合流。カンジア家の長女アッダとお母さんのカティさんが来ました。とても大人っぽくて、中学3年生には見えませんでした。すごく優しくていい人でした。荷物をもって家に向かいました。

とてもきれいな家でした。馬を飼っていて驚きました。犬が2匹いて、とっても可愛く、すぐ僕になついてくれました。

それから家族で馬に乗りながら山にいきました。とても速くて怖かったです。僕は、調子にのって手綱を離していたら、馬から落ちました。とても痛かったけど楽しかったです。

それからスーパーに行きました。そこで外国の下着を購入しました。

スーパーには、スケボーがありました。日本円で1,000円だったので即決で買いました。それから毎晩ずっと練習しました。

アッダに「何が食べたい？」と聞かれて「肉が食べたい」と言ったら、その日の夕食は肉料理でした。肉のブロックが大きく、食べ応えもあり、大満足でした。

食後に山に登ってテントに入って、クレープやソーセージなどを食べました。とてもおいしかったのですが、日本時間の午前2時でとても眠たかったです。

シャワーの蛇口が日本とは違い困りました。この日はとても疲れていて、ぐっすり寝ることができました。

### <4 日目>



この日は、僕も現地の学校に行くと言われて、少し緊張しました。学校は、スクールバスで行きました。学校にいる中学生は、大人っぽくて中学生には見えませんでした。

日本人が僕だけで、とても不安な気持ちになりました。高子君が来て、かなり気持ちが落ち着きました。日本語が話せる人がいて安心しました。

それから奈井江の中学生2人も来ました。日本人が増えて、心強く感じました。それから何人かで話をしながら、ケーキを食べました。そこで食べたケーキがとってもおいしかったです。

授業を見学しました。学校が終わり、バスで家に帰りました。

この日もとても疲れて、眠りにつきました。

## <5日目>

昨日と同じバスで、違う学校に行きました。そこは職業訓練学校でした。その学校についての説明などを聞きました。いろんな仕事の専門的な勉強を高校生で学べて、日本の職業高校と同じだと思いました。

昼食はレストラン。スープがとてもおいしかったです。サラダに入っていたオレンジ色の実が初体験でした。デザートもおいしかったです。レストランの料理は、全部この職業高校の生徒が作っていると聞いて驚きました。

食べ終わり中学校に戻りました。

それから野球をしました。久々に体を動かすので、とても楽しみでした。グローブが日本とは違う形で驚きました。日本のグローブが懐かしく思い出されました。ルールも日本の野球とは違いましたが、おもしろかったです。

自分は野球部なので、大活躍でした。

試合が終わったら、家に帰りました。その日は、アッダが僕に豚丼を作ってくれました。久々の米だったので、おいしかったです。フィンランドの米は、日本米より、水分が少ないように感じました。



## <6日目>



この日は、ハウスマルビ町の企業や教会に行きました。教会では、大きな鐘を見学しました。

次に、企業に行きました。そこは、スパイスがいっぱいあって、すごい量でした。そこで話を聞いているときに置いてあった飴がとてもおいしくて、たくさん食べてしまいました。そこでは、スパイスもいただきました。初めての“におい”を体験しました。

それからキャンドルを売っている店に行きました。いっぱいキャン

ドルがあってきれいでした。そこにいた犬がとても可愛かったです。その店では、バラのキャンドルを買いました。

次に織物の店にいきました。たくさんの絨毯やクッションなどがありました。それから学校に戻って、家に帰りました。

夜に「サウナパーティーがある」と言っていたので、準備して向かいました。会場で写真をとりました。それから夕食を食べて、湖に行って遊びました。

石を投げたり、吹き矢をしたりしました。それから高子君と彼のホストファミリーのアルト君とスケボーの練習をしました。アルト君は、とてもスケボーが上手でした。アルト君に教えてもらって少し上達しました。



食後、サウナに入りました。中は、真っ暗で何も見えませんでした。サウナは苦手な僕ですが、フィンランドで慣れてきました。体を温めてから、いよいよ湖に飛び込む時がきました。事前に聞かされていたのですが、いざ入るとなると「本当に入るのか」と不安になりました。いざ入ってみたらすごく冷たかったです。最初は足がつかなくて、溺れるかと思いました。でも、楽しくて5回も入っちゃいました。2回目以降は十分楽しめました。すごく楽しくて、いい経験になりました。またやりたいなぁと思いました。

それから少し休憩してからタクシーに荷物を載せて、ホストファミリーとお別れをしました。とてもいい人たちだったので、お別れがいやでした。またいつか会いたいです。

#### <7日目>



朝食を食べてから、タクシーでヘルシンキに行きました。建物が日本とは、まったく違いました。ヨーロッパって感じで本当にきれいでした。道路を通っていたら、とても大きい船がありました。幅が僕の学校2個分かそれ以上の大きさで、乗ってみたいと思いました。

車から降りて街を歩きました。建物もすべて日本とは、まったく違いました。ガラス店やデパートに行きました。

デパートでは、お土産を買いました。それからタクシーに乗って空港に向かいました。喉がかわいたのでジュースを買おうとしたら、自動販売機が日本と違ってお金の入れ方がわからなくて困りました。

搭乗の時間が来て、いよいよフィンランドともお別れなんだと思い、とても寂しかったです。

飛行機に乗ったらすぐに寝てしまいました。

#### <8日目>

日本に着いて、やっぱり日本はいいなと思いました。それからみんなでラーメンを食べに行って、奈井江に帰りました。母親の顔を見て、「帰れてよかった

なあ」と思いました。家に着いたらすぐに寝ようと思ったんですけど、“時差ボケ”で全然、眠れなくて困りました。

視察研修を通しての感想は、初めてのことばかりで、何もかもが新鮮でした。苦勞したことは、言葉が通じなかったことです。フィンランド語も英語も自分には、理解できませんでした。また、食生活は「パンと野菜」が中心で、自分の通常の食生活とは違いました。



自分が興味あったことは、町並みがとてもきれいで、建物の造りも日本とは全く違い、印象に残りました。フィンランドの人は、体格的に同い年の自分よりとても大人に見えました。

今後の生活において、まず自分には、今生活している日本について、知識・理解を深めたいと思いました。「英語」「世界史」などいつも勉強している内容を今まで以上に一生懸命がんばりたいです。

是非またフィンランドには行きたいと思っています。奈井江町の皆様には、大変お世話になりました。北町長をはじめ、多くの方に、このような有意義な視察研修の機会を与您いただきまして、本当にありがとうございました。これからの生活で、今回の経験をより多くの人に伝えていきたいと思ひます。

## ハウスマルビ町を訪問して

奈井江中学校 3年1組 佐藤 聖美

私は今回、ハウスマルビ町視察団員に応募し面接を受け、ハウスマルビ町を訪問出来ることになりました。はじめての海外でしたが、あまり不安は無かったです。1日目は大阪で泊まり、2日目にフィンランドに向かいました。約10時間のフライトは、思ったより短く感じました。

リヒマキ市のホテルでパイヴィー・テラヴァ町長、アレキシ・ヘッキラ理事、ヴォッコ・ラマさんと一緒に食事をし、一泊しました。

次の日の朝、ホームステイ先の家族と合流しました。サロネン家のお父さんのヤリさんと長女のユーリア（14歳）が迎えにきてくれました。ユーリアの家はハウスマルビ町内のヒキアと言う地区にあるので、車で家に向かいました。家に着くとお母さんのパイヴィーさんとユーリアの弟のユートゥス（13歳）が出迎えてくれました。

### 【ホームステイ 1日目】

家に着くとお土産の交換をしました。サロネン家族からはフィンランドの飴のサルミアッキや、マリメッコのポーチ等を貰いました。私からは、箸、折り紙などをあげました。特に好評だったのが、かっぱえびせんと柿の種など、お菓子が人気でした。一段落したところで、お母さん手作りのパンを食べました。その時に、サルミアッキを食べましたが、とてもまずくて食べきれませんでした。ユーリアとユートゥスは普通に美味しそうに食べていてびっくりしました。その後、犬の散歩をしながらヒキアの町を見ました。新しく出来た小学校もありました。



家に帰ると、お母さんが日本を紹介している本を持ってきて、いろいろ話をしました。特に、東日本大震災のことをとても心配していました。津波や原発など、フィンランドでも報道されたそうです。他に、二足歩行ロボットや猿が温泉に入ることや学校の制服など、いろいろ質問されました。ちょうど中学校の制服を持っていたので見せました。フィンランドには制服がないようなので、喜んでいました。

話をしたあとに、車に乗りサマーコテージに行きました。サマーコテージにはおじいちゃんおばあちゃんが居ました。サマーコテージにはサウナがあり、大きな湖もありました。時間があったのでお父さんとユーリアと一緒に湖でボートに乗りました。少し怖かったけど楽しかったです。

フィンランド式のサウナは初めてなので、とてもワクワクしていました。熱した石みたいなのに水をかけて、蒸気で室内の温度を高くします。日本でも見

たことがありました。思っていたより入りやすかったです。体が温まったら湖に入りました。その日は風が強くととても寒かったので、水が冷たかったです。泳ぐことまでは出来なかったです。サウナを出たら、家の中の暖炉でソーセージを焼き、食べました。美味しかったです。その後、家に帰り、早めに就寝しました。

### 【ホームステイ 2 日目】

2 日目は観光をしました。ハメーンリンナ市という古い町に行きました。石造りの塔に登ったり、白鳥などの水鳥に餌をあげたりしました。北海道ととてもよく似ていました。昼食を食べ、町を散歩しました。日本人が多く、お父さんが「ここは東京みたいだ」と言っていました。



家に帰り、ユーリアの従姉弟の家に行くことになりました。従姉弟の家は歩いて 3 分ほどです。昨日会ったおじいちゃんおばあちゃんも従姉弟の家に住んでいるそうです。日本の話をたくさんしました。そして、日本語で「ありがとう」「さようなら」「こんにちは」を教えました。みんな優しく、面白い人でした。

家に帰り、トランポリンで遊びました。テラスで食事をした後、お互いの教科書を見せあいました。お父さんの昔の話を聞きました。お父さんは昔、ボート競技のフィンランド・チャンピオンになったことがあるそうです。

### 【ホームステイ 3 日目】

朝、お母さんに起こしてもらい、朝食を食べ、ユーリアとユーリアの友だちのインカと一緒にスクールバスに乗り、学校に行きました。普段は、電車で行っているそうです。朝はとても寒く、目が覚めました。

学校では、授業や教室などを見学しました。技術や手芸など、何をするのにもすごく本格的でした。ただ、教科ごとにばらばらの教室に移動するのは大変だなと思いました。

ランチを食べた後、図工をして調理室に行きました。ヌードルとチョコプリンを作っていました。少しだけ手伝って、ユートゥスのグループと一緒に食事をしました。楽しかったです。



家に帰り、お母さんとユーリアと一緒に近くの小さいマーケットに行き、お菓子を買いました。乳製品やライ麦パン、グミ、チョコなどが多かったです。『Geisha』というチョコもありました。不思議な黒いお菓子も食べました。「説明できないから試し

てみて」と言われ食べてみましたが、味は苦く、ぼそぼそしていて、食べきれなかったです。フィンランドには不思議なお菓子がいっぱいあります。フィンランドの独特の味なのかなと思いました。

家にユートウスの友だちが来ていたので、一緒に食事をしました。ユートウスはアイスホッケーをやっていて、友だちはそのチームのキャプテンだそうです。アイスホッケーは、フィンランドの国技という感じでした。ユーリアと折り紙をしました。ユーリアは、折り紙を折るのが上手でした。

#### 【ホームステイ 4 日目】

昨日と同じように学校に行きました。学校にタクシーが迎えにきて職業学校に行き、鈴木さん方と合流をしました。職業学校には中学校を卒業すると入れます。そこでは、自動車の整備やトリマー、ウェイター、コックなど様々な職業になるための設備がありました。昼食も校内にある学生が作っているレストランに行きました。本格的で美味しかったです。

学校に戻り、フィンランド野球をした後にユーリアとユーリアの友だちと電車に乗り、ヘルシンキの大きなショッピングモールに行きました。ハンバーガーを食べ、ショッピングをしました。お土産など色々買いました。とても楽しかったです。家に帰るとお米を食べました。まっ黄色いととも甘いカレーのようなものをお米にかけ、醤油をかけて箸で食べました。美味しかったです。みんな、箸の使い方に苦戦していました。



その後に、小学校のジムで運動をしました。大きなアイスを食べ、グーグルマップで奈井江の町並みを見ました。お父さんとユーリアは「今度、奈井江に行きたい」と言っていました。今日は、ホームステイ最後の夜なので、遅くまで話をしました。

#### 【ホームステイ 5 日目】

今日はハウスヤルビの観光をしました。教会や郷土資料館、スパイス工場や織りものを作っているところなどを見ました。違う国の郷土資料館などは、日本とは違うものがたくさんあるので面白かったです。

学校に戻り、ユーリアとスクールバスに乗り、家まで帰りました。荷造りをして、ニクランディアに向かいました。食事をしてから、スモークサウナに入りました。スモークサウナは、フィンランドの伝統的なサウナで、みんなもあまり入ったことがないそうです。もちろん湖にも入りました。友だちと 3 人で外に行き、星を見ていたらコウモリが出てきてびっくりしました。お別れの時間になりました。いろいろな思い出があり、みんなと別れるのはとても寂しかったです。またみんなと会いたいです。

翌日の朝、ラマさん方がホテルに迎えにきて、ヘルシンキの観光をしました。

海沿いの市場は函館に似ていました。変わった野菜やベリーなどがありました。鹿の毛皮などもありました。石造りのビルが立ち並んでいました。かっこよかったです。フィンランドを代表するキッチン用品専門店のイッタラやデパートでお土産を買って、空港に向かいました。フィンランドを離れるのが凄く寂しく、帰りたくなかったです。

ホームステイをして、英語だけでの生活はあまり不便を感じなかったです。分からないところはジェスチャーで伝えたりしました。食事も食べれないものはなく、大丈夫でした。ハウスヤルビで過ごした毎日が楽しく、新しい発見ばかりでした。友だちもたくさんでき、思い出もたくさんできました。また、フィンランドに行きいと思いました。ユーリアとはEメールを交換して、今も連絡をとっています。ほかの友だちもインターネットを通じてやりとりをしています。



今回、このような機会を与えていただいて、とても感謝しています。ただ、福祉施設に行けなかったのが、行きたかったです。この先、フィンランドでのホームステイや様々な経験を生かしていきたいと思います。ありがとうございました

## ハウスマルビ町を訪問して

奈井江中学校 2年2組 大澤 真子

9月23日から30日までの7日間、私はフィンランド・ハウスマルビ町視察団員として、ハウスマルビ町を訪問しました。

行きの10時間の飛行機では、つらいことを忘れて、ずっとワクワクしていました。ヘルシンキ空港に着いて、通訳のヴォッコ・ラマさんが迎えに来てくれました。空港の建物を出た瞬間に冷たい風が吹いていて少し寒かったです。フィンランドの気候は日本の約2ヶ月先の気候だったのでコートを持ってきておいて良かったです。

タクシーで、リヒマキ市のホテルに着いて、歓迎会に行きました。フィンランドでは、ナイフとフォークで食事をするのが基本なのですが、私は普段、箸ばかりを使っていたので、とても食べにくかったです。歓迎会は7時頃までやっていて、まだフィンランドの時間になれていなくて、このとき日本時間で午前1時頃だったので、とても眠たかったです。部屋に戻って、明日の準備をせずすぐに眠ってしまいました。

### <ホームステイ>

この日は朝9時、ホームステイ先の家族が迎えに来てくれました。私はヴァイノラ家の家族にお世話になりました。

迎えに来てくれたのは、同い年のサリ（14歳）という女の子とお父さんのタピオさんが迎えに来てくれました。家は農家で、周りに家はあまりありませんでした。家に入って、私の部屋に案内してくれました。私の部屋には、ピアノとギターが置いてあって、私専用のクローゼットも用意してくれていました。サリは英語が得意で、私に話すときは、全て英語に直して話してくれました。



「フィンランドでは、フィンランド語と同じぐらいに英語も勉強するんだよ」と言っていて、私も日本語と同じぐらいに英語等の異国の語学も話せるようになりたいと思いました。家の中を案内してくれたときに驚いたことが、シャワーの横にサウナがあったことで、サリが「2日に1回サウナに入れるよ」と言って、サウナの使い方を説明してくれました。

その後、サリの部屋に行って、いろんな話をしました。サリは日本の初音ミクが好きだと言っていて、初音ミクの音楽を一緒に聴きました。しばらくし

てサリが、「今からお昼ご飯を食べに行くけどピザでいい？」と言われて、「うん、私ピザ好き！」と言うとサリは、「良かった。じゃあ自転車で駅まで行って、電車でリヒマキ市に食べに行こう！！」と言われて、急いで準備をしました。

駅について電車を待っている時、サリと話をしていると「本当は今日、遊園地に行く予定だったんだけど、雨が降ったから行けなくなっちゃったんだ」と言われて、ちょっと残念でした。電車に乗ってリヒマキ市に行きました。街中は人が多くてにぎやかでした。ピザ屋さんに着くとメニューが出てきて「好きなもの3種類、選んでいいよ」と言われて選んだ後、野菜を取りにいきました。野菜は何でも好きなものを取っていくバイキングのような形だったので、お金はかからないのかな?? と思いながら取っていきました。野菜を食べ終わった頃にピザが出てきて、その大きさにビックリしました。これは一人で食べる量じゃないでしょ...、というぐらい大きくて、案の定、半分でギブアップしました。よく見るとサリも、お父さんも半分ぐらい残していました。そして、箱が出てきて、店員さんが箱の中に余ったピザを詰めて、そのままお持ち帰りしました。

家に帰ってサリにお土産を渡して、すぐにシャワーに行きました。シャワーから出てきたら、兄のオスク（16歳）がリビングにいてびっくりしました。オスクは「Hi（やあ）」と言って、すぐにいなくなりました。するとサリが、「オスクは、シャイなんだ。でも気にしないでね、ああ見えても優しいから」と言ってくれて、少し安心しました。そして、部屋に戻った私は、まだ6時半だというのに寝てしまいました。

## <2日目>

この日は、朝6時半に起きて12時間も寝ていたことにビックリしました。お父さんは仕事に出ていて、サリとオスクはまだ寝ていたので、家の中の写真を撮った後、猫と遊んでいました。するとサリが起きてきて「Good morning」と言われて「Good morning」と言いました。このとき、ここは日本ではないんだと改めて感じました。するとサリが、「今、朝ごはん食べる？」と言ったので「食べる！」と言いました。すると「飲み物は何がいい？ コーヒー、紅茶、オレンジジュース、水があるよ」と言われて、この日は水にしました。

主食はパンでした。でも日本にはないパンで、上に好きなものを載せて食べました。



食べているときにサリが、「今日は美術館にいこう！ 私の親友のヴィップサが迎えに来てくれるから！！」と言われてビックリしました。でもこれで、フィンランドで友だちをいっぱい作りたいという夢も、ちょっとかなう気がしてワクワクしました。準備をして少ししたら、ヴィップサが迎えに来てくれました。そして、ガラスの美術館に行きました。どれもガラスの芸術品で、とてもきれいでした。美術館を観た後、大きなデパートのような所に行きました。とても広くて、何でも売っていました。

家に帰って、3人で色んなゲームをしました。途中で、お昼ごはんを食べました。この日はパンではなく、お米が出てきました。でも、一粒一粒がやけに大きくて、でもおいしかったです。お昼ごはんを食べた後、私の部屋に行ってピアノを弾いて聞かせてくれました。サリはまだ一年しかやっていないのにとて



も上手でした。サリに「ちょっと弾いてみて」といわれて、曲の覚えているところまで弾きました。するとサリが、「すごい！ 上手だね！！私もそんなの弾いてみたい！」と言ってくれました。そのあと「風の谷のナウシカ」を3人で見てヴィップサは帰りました。私もこの日は、すぐに寝てしまいました。

### <3日目>

朝6時に起きて、ハウスヤルビ中学校に行く準備をしました。

ハウスヤルビ中学校には、スクールバスで登校しました。ハウスヤルビ中学校には校舎が2つあり、1つは奈井江中学校と同じ校舎で、もうひとつは語学専用の校舎で、どちらもとても綺麗でした。

私たちは語学専用の校舎に行って、1時間目の英語の授業を受けました。驚いたことは、席に指定がなく、机に座っても注意されることはありませんでした。さらにハウスヤルビ中学校には制服といった決まりもなく、髪を染めている人が多く、「これ、本当に中学生？」と思うぐらいに大人っぽい人たちがばかりでした。1時間目の英語が終わった後、校舎の中を見学しました。見学している途中で音楽室に行きました。そこで生徒の人たちがバンド演奏をしてくれて、とても上手でした。

学校から帰ってきて、サリが部屋にきました。「これは、サルミアッキだよ。とてもまずくて、私は苦手なんだ。1個食べてみない？」と言われて、1個食べました。衝撃的で、なんともいえない味に私は言葉も出ませんでした。「でも、

オスクはサルミアッキが食べれるんだ。そんなにまずくないって」。そう言って、サリはオスクにサルミアッキを渡すとオスクは平気な顔をして食べていました。かなり驚きました。

#### <4日目>

今日は、奈井江の4人だけでタクシーに乗って、「職業高校」を見学した後、中学校に戻って「ペサパッコ」をしました。キャッチボールまではできたのですが、ゲームが始まると、何もできませんでした。「ペサパッコ」は野球にとっても似ていたけど、所々違うところがあって戸惑いました。

ペサパッコが終わって家に帰ってから、サリと一緒に外に行きました。サリのおじいちゃんが管理している林に行って、林の中を歩いて行きました。太陽が木と木の間から林全体を照らしていて、すごくきれいでした。



家に帰るとサリが部屋に来て、「今日が最後の夜だね。もっと一緒にいたかったよ」と言ってくれて、「私もだよ」と1時間ぐらい話していて、「もう少し長くここにいたいなあ」と思いながら、ずっと使っていたクローゼットの中の荷物をスーツケースに詰めていきました。この日は、なかなか寝ようとは思いませんでした。

#### <5日目（ホームステイ最終日）>

この日は朝から、やたらと「最後」という言葉が聞こえてきました。

バスに乗るのも最後、学校に行くのも最後。ホームステイの5日間とは、あっという間に終わってしまうもので、すごくやり残したことが多い気がしてモヤモヤしていました。

奈井江町の4人で車に乗って、鈴木団長に会って、ハウスヤルビ町の視察をしました。キャンドル屋さんに行って、初めてユーロで何かを買いました。すごく楽しかったです。

学校に帰るとサリが待っていて、バスに乗って家に帰りました。家に帰って少しして、サリが部屋に来て、「あなたへのプレゼントだよ。ヴィップサと2人で選んだの」と言って、とても大きな袋を2つくれました。すごく嬉しかったです。

そして、あっという間にサウナパーティに行く時間になって、私はスーツケースを閉じました。部屋も、初めて来たときみたいに何も私の物がない状態に

して、「ここに来た時は、すごく嬉しかったなあ」と考えながら家を出ました。

サウナパーティでは、夕食を食べた後にサウナに行きました。伝統的なサウナで、日本のサウナよりも入りやすかったです。フィンランドのサウナの入り方は、サウナに入った後に湖に飛び込むということだったので、ただでさえ寒い気温の中で、勇気を出して冷たい湖に飛び込みました。とても冷たかったですが、楽しかったです。

サウナの後、サリとヴィップサと3人で、外に出て話をしました。

「いつか私も日本に行くから!! そのときはまた会おうね!!」とサリに言われて、「うん! 待ってるよ!」と言いました。そして、お別れの際に「絶対また会おうね」と約束して、お別れしました。



この5日間で、私は言葉の大切さや人とのコミュニケーションの楽しさなど、たくさんのことを学ぶことができました。このような機会を作っていただき、本当にありがとうございました。